

B-104 衣服における微生物の付着状態について
共立女子短大家政 ○田中直義、青山昌照
秋田大教育 庄司善哉

目的 微生物の衣服への付着状態、また付着した後の生理状態について知見を得ることを目的とする。①微生物数の測定方法について検討を行った。②白衣に付着している微生物数を測定した。

方法 衣服に付着している微生物数は一般に、試料布を細断した後に生理食塩水等で洗い出し、洗い出した液について平板法、MPN法等で計測されている(以下、間接法と称する)。演者らは試料布を直接寒天平板培地に張り付け培養した後に、TTCを用いて発色処理を施す方法(以下、直接法と称する)を検討し、この方法と間接法との比較を行った。運動性の大きい微生物種においては形成されるコロニーが広がる傾向にあったので、寒天を重層する方法を検討した。一定期間使用した白衣、布巾を試料として、直接法、間接法で同時に計測を行い、微生物付着の状態、また布地上における微生物の増殖状態について推察を試みた。

結果 微生物として *B. subtilis* の胞子を布地に噴霧して試料布を作成し、2種の測定方法を同時に行い比較した結果、その測定値に統計学的な差違は認められなかった。また寒天を重層することにより、形成されるコロニーの拡大を防止することが可能となった。白衣の24カ所から布地を切り取り直接法で計測した結果、肩、背、すそは比較的微生物の付着は少なく、ポケットは多かった。直接法と間接法を同時に行った結果、汚れやすい部位においては微生物が布地上で増殖していることが明らかとなった。このような現象は、布巾においても同様であった。